

平成 22 年度 男女共同参画のまちづくり

子育て中のパパ・ママにやさしいまちづくりを考える調査研究報告書 < 概要版 >

1. 調査研究の概要

(1) 調査研究の目的

0 歳から 4 歳の子どもがいる世帯は大阪市から転出超過の傾向にある（『第 6 回大阪市人口移動要因調査報告書』平成 20 年度）が、市内中心部においてはこれらの世帯の人口増加が著しい。

この調査では、大阪市が掲げる「いっしょにやりまひょ！」（市民協働）の視点から、市内中心部（中央区・北区・西区）における子育て支援の実態と取組を調査し、「子育て中の男女にやさしいまちづくり」のあり方を考察するとともに、「大阪市男女共同参画基本計画－大阪市男女きらめき計画－」後半期の重点的な取組「魅力あるまちづくり」の推進に役立てることを目的とする。

(2) 調査研究の視点

- ・男女ともに仕事と家庭を両立でき、子どもを産み育てることが楽しいと感じられるまちのあり方を把握、分析する。
- ・男女共同参画の推進においても、「いっしょにやりまひょ！」－市民協働による手法を用いて、課題解決の道を探る。

(3) 調査研究のフロー

次の手順で、調査研究を進めた。

(A) 統計調査	全体像の把握 (a) 子育て中のパパ・ママの現状把握 (b) 子育て支援・サービスの状況把握
↓	
(B) 実態調査	ニーズ・課題の顕在化 (a) 現地調査 子育て層が暮らすまちの実態 (b) ヒアリング調査 子育て支援ニーズと課題の実態 地域での子育て支援の実態
↓	
(C) 調査研究のまとめ	「魅力あるまちづくり」を推進するための解決策の提示 (a) 調査結果から導き出されたニーズ・課題と優良事例のマッチングにより、具体的な解決策を提示 (b) 市民協働による方法論的アプローチ

2. 調査研究結果のまとめ

男女共同参画の視点から子育て世代のパパ・ママにやさしいまちを実現するため、調査結果から、仕事と両立ができ、子どもを生み、育てることが楽しいと感じられる「魅力あるまちづくり」に向けた取組の方向性を次のとおり提示する。

大都市大阪の魅力、再発見。「職住近接」「余暇住近接」のまちは、働きながら子育てをするパパ・ママに、“魅力的なまち” - 生活の場としての利便性

- ・大阪市内（今回は中心部）に住み働くという「職住近接」の暮らしは、時間的余裕につながり、子育て中のパパ・ママ、特に核家族の共働き世帯にとって、仕事と子育ての両立がしやすくとても便利。
- ・余暇を楽しみ、趣味・教養を充実させる環境が備わっている都市（特に中心部）に住む「余暇住近接」は、子どもも自分も大切に考える今のパパ・ママにとって“魅力的なまち”であるための大きなポイント。

共働きの核家族世帯が求める子育て支援・サービスの整備・拡充が女性の就業率の上昇へ。男性が家庭的責任を担うことができる環境の整備が、男女のワーク・ライフ・バランスの推進につながる

() 子育て層の定着には、就労継続を希望する女性たちに向けた子育て支援策が重要

- ・子育て支援・サービスの提供状況の調査結果から、認可保育所の整備・拡充により、待機児童は減少してきているものの、地域や子どもの年齢によって偏りがあり、整備についてはまだ十分ではないと考えられる。
- ・認可外保育施設では、例えば、休日や夜間に託児を必要とするパパ・ママのために、夜遅くまでの託児や、送迎など、個別化されたニーズが少なからず存在する。
- ・就労に対する女性の意識も変化し、出産後も就労の継続を望む女性や、出産後なるべく早いうちに職場復帰を望む女性も増加している状況にある。
- ・子育て中のパパ・ママも、夜勤や宿直がある業種や、平日の9時～17時の勤務時間以外や日曜日や祝休日でも出勤する労働条件で働いている人が少なくない。

世帯規模の縮小が進む中、これらの男女が仕事と子育てを両立することは、誰かが子育ての一部を担わなければ不可能。よって、行政、市民、事業主が一体となり、社会総がかりで子育てをする男女の支援をすることが必要。

() 働く男性が家庭的責任を担うことができるように、企業に向けたワーク・ライフ・バランス推進のための支援

- ・共働き世帯が増えているにもかかわらず、育児の実際上の負担はまだまだ女性の肩にかかっている。女性たちの負担を軽減するために、国や自治体でもさまざまな取組を実施しており、これらは女性たちにとって、有効であった。
- ・しかし、職場によっては、子どもが急病であっても仕事を優先せざるを得ないケースも多く、看護のための休暇をとることもできないという現実がある。こうした働き方を社会全体で見直していくことが不可欠。
- ・女性たちの支援をすればするほど、育児は女性が担うべきものという意識を女性自身にも、社会にも与えてしまう。それでは、子育ての困難さの原因が根源的に解決されないばかりか、父親である男性たちは子育てを喜びを感じる機会すら得られないままである。子育ては個人の問題ではなく、社会的な、公的なものであるということを、何よりもまず企業のトップが理解し、従業員の子育て支援に取り組む姿勢を見せることで、社会のありようを変えていくことも必要であろう。

- ・平成22年には、男性首長が育児休暇を取得する、「イクメン」が流行語大賞のトップ10に選ばれるなど、男性の意識も、社会も少しずつではあるが変化してきており、この機運を盛り上げるには絶好の時機であるといえよう。
- ・大阪市では、市・市民・事業者が協働した男女共同参画推進の一環として、働く一人ひとりがその個性と能力を十分に発揮することができる職場づくりに向けて、効果的な取組を進めておられる市内の中小企業等を表彰している。

経営トップに社会貢献の一環として従業員の子育て支援に取り組む意義を伝え、社会的な発信力につながることは行政をおいてほかにはない。各自治体での取組から、企業が取り組みやすいもの（裾野の広がりが期待できるもの）、発信力の大きさの2点に着目し、効果的であると考えられる代表的な事例を紹介。

参考事例▶

<企業の顕彰・認証・登録制度>

「大阪市きらめき企業賞」（大阪市）

企業における男女共同参画の取組を広くPRするため、ロゴマークを作成。受賞企業等が作成する自社のパンフレットや封筒、名刺等の印刷物、ホームページなどで使用することにより、他の企業等にも男女共同参画の取組が広がっていく効果が期待できる。



「夢ふくらむ子育て顕彰」（宮崎県）

顕彰の対象を企業のほか、子育て家庭の育児負担の軽減や子育て家庭に有益な情報の提供等を実施しているNPO等団体、自ら工夫し、自らの成長や楽しいと思える子育てを実践している団体等にも広げているところが特徴的。

<キャンペーン>

自治体をあげて取り組んでいる様子が市民、県民に伝わりやすく、効果的。

「男性の子育て参画日本一」をめざした取組の展開（大分県）

＊パパの子育て後押しキャンペーン

シンボルマークの公募、バッジ作成等

キャッチコピー、ラジオスポット文案の公募

「い～な」ふくおか・子ども週間（福岡市）、「い～な」ふくおか応援団（福岡市）

「安心して子どもを産み育てることができる岐阜県づくり条例」（岐阜県）

「早く家庭に帰る日」（岐阜県）

子育て支援活動に男性が参加しやすい環境を整備することが、地域における男女共同参画の推進につながる

() 子育て中のパパに対する取組

- ・認可外保育施設のヒアリングから、子どもの送り迎えにパパが来るなど、子育てに参加するパパが増えてきていると感じる。また、つどいの広場でのパパの参加も増えてきている。特に0歳児のパパ・ママはイベントと一緒に参加したいという思いが強いことがわかったが、実際にはそのような機会は限られているため、施設への要望として、もっとイベントを増やして欲しいという声も聞くとのことであった。
- ・企業への取組とともに、当事者である男性への働きかけも重要である。社会の機運が盛り上がっても、男性の子育てへの参画が進まない限り、女性が育児に悩む状況は改善されないだろう。

男性への働きかけとしては、すでにさまざまな取組がなされているが、企業に向けた取組と同様に、個々の事業をひとつの大きな旗印の下で推進していくことが、事業全体の見せ方として効果的であり、発信力も強まる。

参考事例▶

「横浜パパスクール事業」(横浜市)

「横浜イクメンスクール」(校長：山田正人・横浜副市長) 修了者には校長より、『ヨコハマダディ』の称号が授与される。

「ヨコハマダディ」(子育てパパ応援サイト)

しゃれたネーミングや子育てを楽しく感じるような雰囲気づくり、父親どうしのネットワークづくりの工夫がされていて、大いに参考になる。

「父子手帳」(岐阜県)

男性に向けたメッセージは、特に若いパパに向けて効果的であろう。

()リタイアした男性に向けた取組

- ・ヒアリング調査を行ったうちの2つの施設では、高齢者と子どもが同じ空間を共有する様子が見られ、また、将棋教室などで子どもと高齢者の交流はできているという。
- ・しかし、地域全体として子どもと高齢者の交流が進んでいる、というところまでには至っていない。乳幼児については、すでにある子育て支援施設における交流の場を活用できるが、小学生については、親の帰宅時間までの間、児童いきいき放課後事業の終了後などに、遊び相手などとして、定年退職した団塊世代の男性たちの活躍の場をつくることで、まちでの子育ての支え手もうまれるのではないかと。「子育て支援」と構えず、例えば昔の遊びを一緒に楽しんだり、宿題を手伝ったりというふれあいの中で、子ども自身が安心でき、男性たちも家庭や職場以外での新たなつながり・出番ができることが、地域における男女共同参画の推進につながる。
- ・リタイアした男性がもつ知識・経験、ネットワークをいかして、地域での子育て支援や高齢者の見守りなど、彼らのもてる力を発揮できる環境を整備し、地域のニーズとのマッチングをすることが有効であり、他の自治体でみられるような、商店街の空きスペースなどの活用や市の施設の利用により、活動の場が広がるであろう。

これらの活動のために、岐阜県子育てマイスターのような登録制度を導入し、認証(人材育成)のための講座はクレオ大阪をはじめ地域で実施する。マイスターは行政が認証するひとつの資格とすると、社会貢献に関心のある男性たちに有効であろう。

参考事例▶

「岐阜県子育てマイスター」(岐阜県)

保育・保健等の子育てに関する有資格者等、子育てに理解と熱意があり、地域で幅広い活動を行う子育て支援者のことで、認定要件を満たし、個人情報の登録に同意できる方を子育てマイスターとして認定。

「子育て人材バンク」(岐阜県)

県が認定した「子育てマイスター」をはじめとする人材情報を、ホームページに登録・公開し、県民や市町村、子育て支援サークルなどからの要望に応じて紹介するもの。

市民協働の手法により子育てにやさしいまちづくりを進めることが、男性の育児参加・地域参加を促進し、男女共同参画の推進に役立つ

- ・今回の調査にあたり、方法論的アプローチとして、子育て中のパパ・ママとともにベビーカーを

押しながらまちを歩き、子育てにやさしいまちを考える「ベビーカーでまち探検！」を実施したところ、男性の参加も多かった。

- ・男性の参加理由は、最近の子育て中の男性は育児に積極的に参加するようになってきており、また、子育てというテーマは当事者として関心が高いものであるためと思われる。
- ・「ベビーカーでまち探検！」の実施結果では、当事者ならではの気づきやニーズを知ることができた。これらの結果は、まさしく市民協働による成果といえるものであり、男性自身の参加、子育て支援のニーズ・課題と地域特性の把握、解決策の発見、市民との情報共有について効果的であるとの確認ができた。

今後、プログラムを改善し、市民や企業とともに各区で実施し、その成果を各区の施策に反映していくことで、男性の育児参加・地域参加が進み、より一層の男女共同参画の推進につながることを考える。

参考事例▶

「妊婦・乳幼児連れ駐車場」(岐阜県)

「子育てにやさしい社会づくり」の取組の一環として、妊婦や乳幼児連れの方が利用できる駐車場の整備の取組を進めている。

これは、県民からの「ベビーカーなどを使う乳幼児連れの利用者が駐車できる駐車スペースが施設の近くにあったらいいのでは」という意見を受け、県の公共施設での整備を進めているもの。今後、県のほか市町村施設、さらに民間施設からも協力を得る。(※設置にかかる費用は設置者の負担)

市民協働による地域の課題解決と、あらゆる場面で男女共同参画を実現するために

方法論的アプローチにより開発したプログラムの活用

- ・今回のプログラムは、子育て以外にも、例えば、防災、高齢社会などをテーマとして応用することができ、そうすることで、幅広い世代の参加が見込まれる。地域特性に合わせたさまざまな課題解決に向けた意識啓発につながるとともに、これらのプログラムへの参加を通して、男女共同参画について考える機会ともなる。
- ・クレオ大阪研究室では、今回のプログラムを、「大阪市男女共同参画基本計画」の後半期の重点的な取組「魅力あるまちづくり」の主な課題のひとつ「地域の活性化」の実現に向けた具体的な取組のひとつとして、今後もそれぞれの地域特性に合わせた内容で実践し、地域の課題解決の一助としたい。

西区の現地調査

・調査地

北堀江・南堀江（西区は中央区の西隣に位置する）

・町並み

北堀江、南堀江ともに、マンションが多く立ち並ぶ。

心齋橋に近い北堀江は、多くの洋服や雑貨などのショップが多くみうけられ、南堀江に向うにつれて、静かな住宅地の様相となっていく。

・交通アクセス

近くには地下鉄の四つ橋線、長堀鶴見線の各駅があり、市内各地への交通アクセスがよく、通勤時間を考えても、交通利便性の高い地域となっている。

・保育施設の近接性

認可保育所は、南堀江に1箇所ある。西区においては、待機児童は解消がされていない。それを補完するかのように、認可外保育施設が5箇所あり、四ツ橋駅と西長堀駅の近くに立地している。

・公園

公園は、各所にあり、親子連れが多く、パパと子どもが遊ぶ姿もみられた。トイレがある公園もあり、親子連れには便利だと思われる。そして、少し離れるが、鞆公園もあり、子どもを連れていく公園には、事欠かない印象である。

・病院

地下鉄西長堀駅からすぐのところ、小児科のある大阪市夜間休日救急診療所があり、他にも、南堀江に救急病院が1箇所あり、子どもを持つパパ・ママにとっては子どもの急な病気にも安心だと思われる。

・生活用品の販売店

北堀江、南堀江にスーパーが各1店舗あり、生活用品の購入については支障がない。また、心齋橋までも、徒歩で20分程度のため、生活用品の購入にも、不便には感じない。コンビニエンス・ストアは、数多くある。

・子ども連れで入れる飲食店

北堀江は、近年では「若者のまち」と呼ばれるように、カフェやレストランが多く見られる。ここでは、ベビーカーを置いて、子どもとともにランチをとっている親子連れの姿がみられるなど、子連れでも気軽に入れる雰囲気となっている。

・その他

地下鉄西長堀駅すぐには、大阪市立中央図書館と子ども文化センターがあり、親子で趣味・教養を楽しめる場所として、利用することが可能である。

北堀江にはヘア・エステ等の美容関連サロンや、マッサージや整体などの健康関連サロンも数多く見られた。若いパパ・ママにとっては魅力のひとつと考えられる。

< 凡 例 >



: 認可保育所



: スーパー



: 小・中学校



: 公園



: 区役所



: 病院



: 図書館



: 商店街



: 認可外保育施設

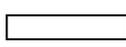
————— : 地下鉄

— — — — — : J R

..... : 私鉄



: エレベーター



: 駅

「ベビーカーでまち探検！」ルートマップ

